

流域対策

学校の校庭・公園・ため池などに雨水を一時的に貯めて流域からの流出量を減らします。

近年、市街化の進展による流域の保水・貯水能力の低下や低平地への人口・資産の集積していることに加え、地球温暖化による集中豪雨が多発する傾向にあり、洪水被害の危険性が増しています。

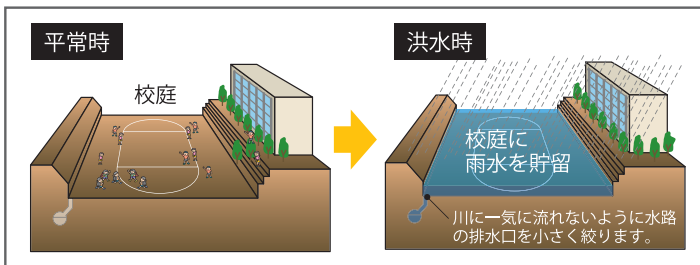
このため、これまで進めてきた河川対策に加えて、学校の校庭・公園・ため池などに雨水を一時的に貯める流域対策を行い、流域からの流出量を減らします。県と流域市は、協力して以下の対策を地元住民の理解と協力を得ながら進めていきます。

校庭貯留

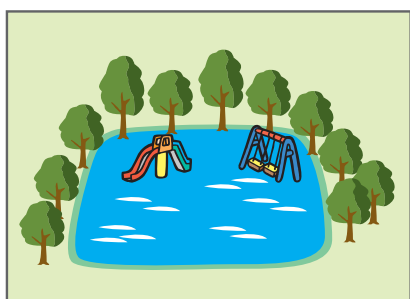


学校の校庭を利用して雨水を貯留します。

校庭貯留のイメージ



公園貯留



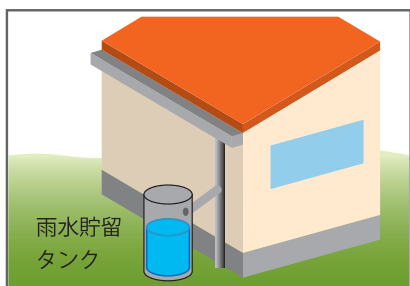
公園の敷地を利用して雨水を貯留します。

ため池貯留



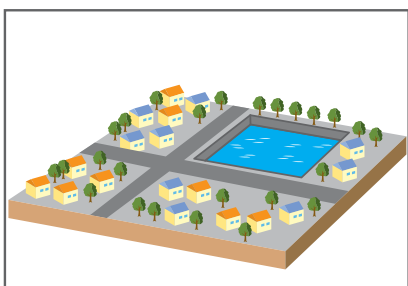
ため池を掘り下げるなど、雨水を池に貯める容量を拡大します。

雨水貯留タンク



屋根に降った雨を、雨水貯留タンク等に貯めます。

防災調整池



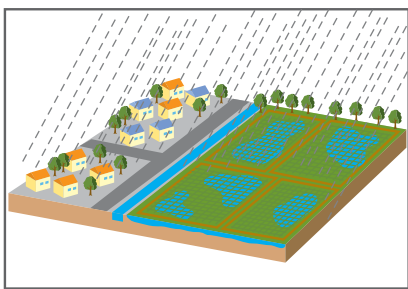
開発に伴い、増加する雨水の流出量を減らすための防災調整池の設置を指導しています。

森林の整備・保全



人工林の間伐など、森林を整備・保全し、水を貯める機能を高めます。

水田貯留



関係する皆様の理解と協力を得たうえで、水田に降った雨を貯める水田貯留の検討を進めます。

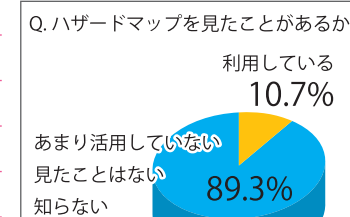
減災対策

計画規模を上回る洪水など想定を超える事態においても、人命を守り、被害を小さくする減災対策を進めます。

最近では、平成21年に佐用川の災害のように想定を上回る事態が発生しています。

これまで、地元住民に洪水ハザードマップなどで水害の怖さを伝えていますが、武庫川下流部においては、約9割の方がハザードマップに対する関心が低い結果となっています。

県、流域市では、協力して以下の4項目の減災対策を進め、地元住民とともに日頃から洪水に備えます。



阪神南県民局管内での県民モニターアンケート調査結果(H21.3)

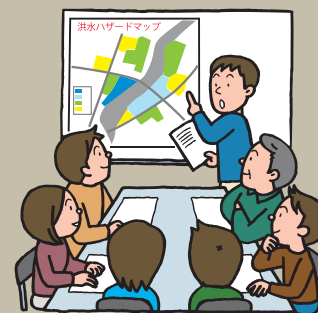


佐用川の災害(H21.8)

水害リスクに対する認識の向上

住民の皆様が水害の恐ろしさを知る機会を多く提供していきます。

- ①水害を知るワークショップ、まち歩きの実施
②CGハザードマップ等映像の活用 等



情報提供体制の充実と水防体制の強化

住民の皆様が避難や市の水防活動を支援します。

- ①洪水予報の実施や河川の画像情報の提供
②水防訓練の実施 等



知る 守る
逃げる 備える

的確な避難のための啓発

地域で住民の皆様が自助、共助の取り組みが進むよう支援します。

- ①手作りハザードマップの作成・活用
②上層階避難など地区内で避難体制の検討 等

水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え

水害に強いまちづくりに向けて検討を進めます。

- ①避難所や病院等の公共施設の浸水対策を検討
②水害に対する保険制度の加入促進 等

一口メモ 武庫川で洪水予報を開始しました

平成22年9月から、県と神戸海洋気象台が共同で武庫川の洪水予報を開始しました。洪水予報とは、洪水時に河川の水位状況や今後の予測される水位等の情報を流域市などの関係機関に通知するとともに、テレビ、ラジオ等のメディアを通じて発信し、住民の避難に役立てる予報のことで...

区間：仁川合流点から河口まで、延長L=9.2km



一口メモ 「総合治水推進計画」を策定しました

県、流域市で構成する「武庫川流域総合治水推進協議会」を設立しました。この協議会で策定した「武庫川流域総合治水推進計画」に基づいて、流域対策や減災対策を進めます。

一口メモ 土木学会都賀川水難事故調査団から流域対策の効果について提言されました

突然の水位急上昇を防ぐには、雨を一時的に貯留する流域対策が効果的です。



都賀川(神戸市灘区)